

ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者 桜新町広報：柏木君夫、岡元正史

◎ 9月1日は「防災の日」。関東大震災の発生日に因んで制定された。

セイコーマート (Seicomart) は、北海道内で1,200店舗を展開する地元コンビニエンス・ストア。小さな町や村にも出店。

24時間営業している店舗も多い。

道内の人口カバー率は、99.8%である。

◎ 北海道・胆振東部地震。

2018年9月6日3時7分に発生した。

北海道の空の玄関、千歳空港から東南東におよそ22キロの厚真町を震源とし、北海道で初めて観測された震度7の地震だ。

この地震で北海道全道が完全に停電して、道内は機能不全に陥った。

千歳空港から北西へ40キロにある大都会・札幌も、甚大な被害を受けた。

セイコーマートも、店舗、食品工場、冷蔵倉庫、配送センターなどが機能停止に。

地震発生後の朝6時過ぎには、多くの従業員が出勤した。

「震災対応マニュアル」に従って、自主的に対応する。

95%の店舗が営業を続けて、殺到するお客様に食料や水などを提供した。

配備されていた非常用電源コードで、車のバッテリーからレジに特化して稼働。

レジは会計だけでなく、何がいくつ売れたか、本部に送る機器だからだ。

照明、冷蔵庫は使えず、アイス類を無料で配布。暗い店舗の厨房のガス釜で米を炊いて、手作りの温かいおにぎりを販売した。停電の中、多くの道民が救われた。

その後、各施設は復旧したが、100%の稼働ではなかった。社長は指示する。

「全道の各店舗からは多くの発注があるでしょうが、申し訳ないが我慢していただいて、被災地と被災地周辺と札幌にと、メリハリをつけてください」

配送でも特別な体制をとった。大型のトラックで駐車場の特に広い店舗へまとめて配送。そこから先は普段は営業用の小型車で運んで、山場の2週間を凌いだ。

広報担当者は自主的にビデオを撮り、一部始終を記録し続けた。

1ヶ月後、1万数千人の従業員に聞き取り調査をして、撮影された映像を検証して

「震災対応マニュアル」を改訂した。店舗には、LEDランタン、ヘッドライト、お客様用のスマホの充電器、電子マネー決済機などを新たに配備。さらに災害が長引いたときのために、ガスで発電する持ち運び式の小型発電機も用意した。

「しない」ことが悪、「しすぎた」ことを善とする社風のコンビニである。



8月の定例会 コロナの拡大により、止むなく活動を自粛しました。

9月の定例会 1日(木)、9日(金)です。